パトリシア・コーンウェル
相原真理子＝訳

黒蠅 下

Patricia D. Cornwell
BLOW FLY
くろばえ

|著者|パトリシア・コーンウェル　マイアミ生まれ。警察記者、検屍局のコンピューター・アナリストを経て、1990年『検屍官』で小説デビュー。MWA・CWA最優秀処女長編賞を受賞して、一躍人気作家に。バージニア州検屍局長ケイ・スカーペッタが主人公の検屍官シリーズはDNA鑑定、コンピューター犯罪など時代の最先端の素材を扱い読者を魅了、1990年代ミステリー界最大のベストセラー作品となった。他の作品に正義感あふれる女性警察署長とその部下たちの活躍を描いた『スズメバチの巣』『サザンクロス』『女性署長ハマー』など。

|訳者|相原真理子　東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。テューダー『ターシャ・テューダーの世界』(文藝春秋)、コデル『本を読むっておもしろい』(白水社)、フィルブリック『復讐する海』(集英社)、コーンウェル『検屍官』シリーズ、『スズメバチの巣』『サザンクロス』(以上、講談社文庫)など、翻訳書多数。

黒蠅(くろばえ)(下)

パトリシア・コーンウェル|相原真理子(あいはらまりこ) 訳
© Mariko Aihara 2003

講談社文庫
定価はカバーに表示してあります

2003年12月15日第1刷発行

発行者——野間佐和子
発行所——株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話 出版部 (03) 5395-3510
販売部 (03) 5395-5817
業務部 (03) 5395-3615

デザイン——菊地信義
製版——凸版印刷株式会社
印刷——凸版印刷株式会社
製本——株式会社千曲堂

Printed in Japan

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社書籍業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-273908-9

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

江苏工业学院图书馆
藏书章

講談社文庫

黒蠅(下)

パトリシア・コーンウェル|相原真理子 訳

講談社

BLOW FLY

by

PATRICIA DANIELS CORNWELL

Copyright © 2003 by Cornwell Enterprises, Inc.

Japanese language translation rights

arranged with

Cornwell Enterprises, Inc.

% International Creative Management, Inc., New York

through

Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

目次

黒蠅(下) 5
訳者あとがき 324

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton

黒蠅(下)

●主な登場人物〈黒蠅〉

ケイ・スカーペッタ　法病理学者
ピート・マリーノ　元刑事
ルーシー　スカーペッタの姪、元ＦＢＩ捜査官
ベントン・ウェズリー　元ＦＢＩ心理分析官
ニック・ロビヤード　女性刑事
ローズ　スカーペッタの秘書
サム・ラニエ　バトンルージュの検視官
ジャン・バプティスト・シャンドン　死刑囚〈狼男〉
ジェイ・タリー　逃亡犯、〈狼男〉の弟
ベブ・キフィン　ジェイの情婦
ロッコ・カジアーノ　マリーノの息子、弁護士
グレンダ・マーラー　誘拐された高校教師
アイヴィー・フォード　誘拐された銀行の窓口係
シャーロット・ダード　八年前の不審死者
ルーディ・ムージル　元ＦＢＩ捜査官
トリクシー　マリーノの同居人
ザック・マンハム　ルーシーのオフィスの主任
ウェルドン・ウィン　連邦検事
ジェイミー・バーガー　ＮＹの女性検事
フランク・ロード　上院議員

60

翌朝、スカーペッタはまだフロリダにいた。

出かけようとしたとき、またそれをはばむようなことがおきた。今回は宅配便で荷物がふたつ届いたのだ。ひとつはポランスキー刑務所広報課からのもので、もうひとつはシャーロット・ダード事件に関する資料がはいったぶあつい包みだ。中身は主に検屍や検査の報告書と組織標本だった。

スカーペッタは左心室自由壁のスライドを複合顕微鏡の載物台にのせた。法病理学者として、これまでにスライドを見るのについやした時間を足したら、何万時間にもなるだろう。組織の微細な構造や、その細胞が語ることの解明に情熱をかたむける組織学者に、敬意は感じる。だがなぜあのような仕事をずっとつづけられるのか、理解できない。なにしろせまい研究室に朝から晩までとじこもって、心臓や肺、肝臓、脳などの臓器や傷、病変部の断片にかこまれてすごすのだ。組織学者はそれらの断片をホルマリンなどの固定剤をいれたびんにつけて、固化させる。そしてパラフィン蠟かプラスチック樹脂に埋めこんで、光がとおりぬ

けられるぐらいの薄さに切る。それをガラスのスライドに固定し、さまざまな染料で染色する。それらの染料は十九世紀の繊維産業によって開発されたものだ。

スカーペッタが見る標本の大半はピンクやブルーに染色されているが、レンズのしたで彼女に秘密をうちあけることになる組織や細胞の構造、病変の種類によっては、ほかにもさまざまな色が使われる。病気と同じように、染料にもその発見者や発明者の名前がつけられることが多い。そのことが組織学を混乱させているとまではいえないものの、不必要に複雑にしているように思える。染料や染色法のことをブルーやバイオレットと呼ぶならともかく、クレシル・ブルーやクレシル・バイオレット、ペルルのプルシアンブルー、ハイデンハインのヘマトキシリン（紫がかった赤）、マッソンのトリクロム（ブルーグリーン）、ビールショースキー（うすい赤）と呼ばなければならない。ジョーンズのメセナミン銀というのもある。スカーペッタはその名前の平凡さが気にいっている。病理学の分野でのエゴイスティックな命名の典型は、シュヴァン細胞腫のシュヴァン細胞の核をワンギーソン染色法によって染色するといった言いかたに見られる。なぜドイツの動物生理学者テオドール・シュヴァンが腫瘍に自分の名前をつけたがったのか、スカーペッタには見当もつかない。

彼女はレンズをのぞき、ピンクに染色された組織のなかの収縮帯を見つめた。それは検屍のときにシャーロット・ダードの心臓の断片から切りとったものだ。繊維の一部には核がなかった。これは壊死がおこっていた、つまり組織が死んでいたことを示唆している。他のス

ライドには、ピンクとブルーに染色された炎症や古い傷、冠状動脈の狭窄などが見られた。ルイジアナに住んでいたこの女性は、バトンルージュにあるモーテルの部屋の入り口で、外出するかっこうをしてキーを手にもったまま、突然倒れて死んだのだ。まだ三十二歳だった。

八年前に彼女が死亡したとき、かかりつけの薬剤師が強力な鎮痛剤オキシコンチンを、違法に与えたのではないかという疑いがもたれた。この薬が彼女のハンドバッグから見つかったが、処方箋はなかったからだ。スカーペッタへの手紙に、この薬剤師はカリフォルニア州パームデザートへ逃亡した可能性があるとドクター・ラニエは書いている。だがそう考える根拠や、なぜいまになってシャーロット・ダード事件の調査を再開したのかについては、ふれていなかった。

さまざまな理由から、これはやっかいな事件だった。発生から何年もたっているし、オキシコンチンがその薬剤師から与えられたものである証拠はない。もしそうだったとしても、薬剤師がその薬で彼女を殺害することを前もって計画していたのでないかぎり、第一級謀殺罪に問うことはできない。シャーロット・ダードが死亡したとき、彼は警察に話をすることを拒否し、弁護士を通じて釈明した。それによると、椎間板ヘルニヤをわずらっているダード一家の友人がシャーロットにオキシコンチンをあげ、彼女がそれをのみすぎたのだろうということだった。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor

八年前にドクター・ラニエが受けとった何通かの手紙のコピーがそえられていた。それらは薬剤師の弁護士、ロッコ・カジアーノが送ったものだった。

61

スカーペッタのデスクの前にある窓の向こうでは、太陽が移動するにつれ、影が砂丘をはいのぼっていく。

シュロの葉がかすかな音をたて、浜辺で黄色いラブラドルレトリーヴァーを散歩させている男性は、逆風に向かって身をかがめている。青くかすむ遠くの水平線では、コンテナ船が南へ向かっている。たぶんマイアミをめざしているのだろう。仕事に没頭すると、スカーペッタは時間と自分のいる場所を忘れ、またニューヨーク行きの便にのりおくれることになる。

ドクター・ラニエは電話をとり、しわがれ声で「もしもし」といった。

「ひどい声ですね」スカーペッタは気の毒そうにいった。

「かぜだか何だかわからないんですけど、とにかく気分が悪くてね。電話してくださってありがとう」

「どんな薬をのんでいらっしゃるの？　鬱血除去剤と、去痰薬のはいった咳止めがいいですよ。抗ヒスタミン剤はよくない。日中用、または眠くならないタイプのもので、抗ヒスタミン剤やコハク酸ドキシラミンを成分にふくまない薬をためしてごらんになるといいわ。そう

いったものがふくまれていると、脱水気味になって細菌感染をおこしやすくなるの。お酒もやめたほうがいいわ。免疫力を低下させるから」

ドクター・ラニエははなをかんだ。「いちおう申しあげておくと、わたしは医者でもあるんです。嗜癖性薬物が専門なので、薬に関しては多少知識があります」むきにならず、淡々という。「それをきいたら安心なさると思ってね」

スカーペッタは、かってに決めつけたことを恥ずかしく思った。検視官は選挙で選ばれる役人で、残念なことに医者ではないものがその役をつとめる場合が、全国的に多いのだ。

「失礼しました、ドクター・ラニエ」

「気にしないでください。ところで、あなたの相棒のピート・マリーノは、あなたを崇拝しているようですね」

「わたしのことを調べたのね」困惑していった。「なるほど。それじゃ本題にはいりましょうか。シャーロット・ダードについての資料、目をとおしましたよ」

「あれはなつかしい事件でね。といっても古いだけで、いいところは何もないんですが。ちょっと待ってください。書くものを用意しますから。うちではきまってペンが行方不明になるんですよ。犯人はわが愛しき妻なんですけどね。はい、ではどうぞ」

「ミセス・ダードの事件は、たしかにややこしいですね」と、スカーペッタは話しはじめた。「毒物検査の結果によると、オキシコンチンの代謝物のオキシモルホンは、血液一リッ

トルに対して四ミリグラムしか検出されなかった。これは致死量ではない。胃からは検出されておらず、肝臓での濃度も血中濃度とほぼ同じ程度。つまり、オキシコンチンの過剰服用による死亡とは考えにくい。薬物の濃度より、臨床所見のほうが問題ね」

「そうですね。わたしもずっとそう思っていました。組織検査の結果から考えると、致死量に達していない量の薬物でも、過剰服用と同じ結果をうんだ可能性がある。検屍報告書や外景所見で見るかぎりでは、皮膚に静脈注射による薬物乱用の痕は見られなかった。注射ではなく、麻薬錠剤を常用していたのかもしれない」

「彼女が常習的な薬物乱用者だったことはたしかね。心臓を見ればそれがわかる。壊死した部分や、いろいろな古さの繊維形成が見られるし、慢性的な局所貧血もある。でも冠動脈疾患はなく、心肥大もない。要するに、コカインにやられた心臓ということね」

これはさまざまな場合に使ういいまわしで、その心臓のもちぬしが必ずしもコカイン中毒者とはかぎらない。麻薬や合成麻薬、オキシコンチン、ヒドロコドン、ペルコセット、ペルコダンなど、常用者が手にいれられる薬物はすべて、コカインと同じように心臓をだめにする。エルヴィス・プレスリーはその気の毒な例だ。

「一時的記憶喪失の件についてもうかがいたいんですが」しばしの間のあと、ドクター・ラニエがいった。

「どんなことについて？」彼が緊急に話したかったのは、このことなのだろう。「送ってい

ただいたケースファイルには、記憶喪失に関することは何もなかったけど」

スカーペッタはいらだちをおさえた。私的なコンサルタントである彼女に提供される法医学的な情報は、かぎられている。重要な事実がぬけていたり、不正確な情報がまじっていたりすると、怒りを感じる。自分で事件を担当し、あるいはバージニア州全土で他の法病理学者が担当する事件を監督する立場にいたときには、面識もない人たちの能力や誠実さをあてにする必要はなかった。

「シャーロット・ダードは一時的に記憶を失うことがあった。すくなくとも、事件当時、そうききました」ドクター・ラニエは説明した。

「だれにきいたのですか？」

「彼女のお姉さんです。シャーロットは逆行性健忘症をわずらっていたらしい……真偽のほどはわかりませんが」

「家族は当然知っていたでしょう、だれもいっしょに住んでいなかったのならともかく」

「問題は、夫のジェイソン・ダードというのが、いささかあやしげな人物でね。だれも彼のことはよく知らない。わかっているのは、たいへんな金持ちで、昔からの農園（プランテーション）に住んでいることだけです。シャーロットの姉のミセス・ギドンという人も、あまり信用できない感じでね。むろん、死ぬ前の妹の状態について彼女が話したことが、事実ではないとはいえませんが」

「警察の報告を読みましたけど、ごく短いですね。知っていることを話してくださいませんか」

ひとしきり咳をしたあと、ドクター・ラニエは答えた。「彼女が死亡したホテルは、あまり治安のよくない地域にあります。わたしの管轄区域ですが。遺体を発見したのは、ホテルの清掃主任です」

「彼女の血液検査の結果は？　送っていただいた資料には、死後の数値しかなかった。だから生前、γ(ガンマ)-GTPやCDTの値が高かったかどうかがわからない。もし高ければ、アルコール中毒だった可能性があるでしょう」

「最初にあなたに連絡したあとに、シャーロットの生前の血液検査の結果を手にいれました。死ぬ二週間ほど前に入院していたので、検査をしたんですね。お恥ずかしいことに、それがちがうファイルにまぎれていました。どうしようもない事務員がひとりいてね。なんとかくびにしたいんですけど、彼女はすぐに告訴するタイプなもので。ご質問の答えは、ノーです。γ-GTPとCDTの数値は高くありませんでした」

「彼女はなぜ入院していたの？」

「また記憶を失ったので、検査のために。つまり死ぬ二週間前にも、記憶喪失におちいったわけですね。それも真偽のほどは不明ですけど」

「γ-GTPとCDTの数値が高くなかったのなら、一時的記憶喪失の原因はアルコールで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor